

# 単元指導計画表～振り返り編～

小学校第2学年

計算のくふう 【新編 新しい算数2上 p.79～82 (東京書籍)】

全4時間

## 数学的な見方・考え方

見方・・・～に着目する

考え方・・・～を論理的に考える ～を筋道立てて考える  
 ～を基に考える ～と関連付けて考える  
 ～と結び付けて考える ～の条件を変えて考える  
 ～の適用範囲を広げて考える

## 振り返りの視点



ア) 何が分かったか、何ができるようになったかについて  
 イ) 何に着目したか、どのように考えたかについて  
 ウ) 次の学習の見通しを持ったり、生活とのつながりを考えたりしたかについて

次	時	教科書のページ 本時のねらい	中心となる 数学的な見方・考え方 <small>※本剤は一体として捉えるものですが見やすさを考慮し、分けて記載しています。</small>	視点 振り返りの	具体的な言葉掛け例 →期待される児童の反応例	方法 振り返りの
1	1	p. 79～80 加法の結合法則と( )の用い方を理解する。  3口の数の加法計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・( )を用いた代金を求める式に着目する。</li> <li>・計算の仕方を筋道立てて考える。</li> </ul>	ア  イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなときに( )を使いますか。 →まとめてたすとき。</li> <li>→先に計算するとき。</li> <li>・1年生の時に学習した3つの数の計算と似ているところや違うところはどこか書きましょう。</li> <li>→3つの数をたすのは同じだけど、( )を使うのが違う。</li> </ul>	口頭でのやり取り
	2	p. 81 3口の数の加法計算の場面を( )を用いた式に表すことができる。  ( )を用いた式から考えを読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・( )の中がひとまとまりの数量を表していることに着目する。</li> <li>・2通りの式の考え方を問題場面と( )の使い方を結び付けて考える。</li> </ul>	ア  イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・( )を使って式に表せるか教科書の問題で確かめましょう。</li> <li>・( )を使って表された式を見て、どのように考えたか説明しましょう。</li> </ul>	適用問題
	3	p. 82 簡単な加法の暗算の仕方を理解する。  簡単な加法の暗算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数の合成や分解の仕方に着目する。</li> <li>・暗算の仕方を加数分解、被加数分解の方法を基に考える。</li> </ul>	ア  ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗算で解けるか教科書の問題で確かめましょう。</li> <li>・今日の計算はどんなときに使えそうか書きましょう。</li> <li>→買い物をするときに使えそう。</li> <li>・次にやってみたいことは何か書きましょう。</li> <li>→ひき算はできるかな。</li> </ul>	適用問題  学習感想
	4	p. 82 簡単な減法の暗算の仕方を理解する。  簡単な減法の暗算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数の合成や分解の仕方に着目する。</li> <li>・暗算の仕方を減数分解、被減数分解の方法を基に考える。</li> </ul>	ア  ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗算で解けるか教科書の問題で確かめましょう。</li> <li>・「計算のくふう」の勉強でできるようになったことを書きましょう。</li> <li>→( )を使って計算できるようになった。</li> <li>→筆算を使わなくても計算できた。</li> </ul>	適用問題  学習感想

※「本時のねらい」について

現在、宮城県内の市町村立小・中学校では算数・数学科において東京書籍の教科書を採択しており、専門研究員所属校でも算数・数学科の年間指導計画は東京書籍の「指導計画作成資料」を参考に作成している。本資料「単元指導計画表～振り返り編～」中の

「本時のねらい」は、専門研究員所属校の年間指導計画より記載したものである。